

第2回生産は529,000尾(歩留り46.44%)から開始、ふ化後15日目には38万尾、ふ化後21日目には77,000尾に減少し、25日目から安定してきたが、取り揚げ尾数60,000尾通算歩留りは5.26%であった。

ワムシの摂餌はふ化後7日目(全長2.82~2.88mm)から1~2.7個みられたものの全体からみればほんの一部の仔魚だと思われ、カキ投与中止がやや早すぎた感があった。ワムシの摂餌率が100%になるまで(ふ化後13日目前後全長3.00mm)カキ幼生を投与してその後に大型水槽に移すようにすれば、移し替えにおける仔魚の急激な減耗を押さえることが可能になるものと思われる。

IV ハマフェフキ沖出し飼育試験

方法

供試魚は当支場陸上水槽で生産されたものを使用した。生簀設置場所及び生簀枠は昭和55年とほぼ同様であるが、今年度は試験区を若干小型化し3×3×2.5m容、4区で実施した。使用した生簀網は、3mm目モジ網から開始し、5mm目モジ網、1cm目ポリ網を魚体に応じて順次使用した。また生簀網の外側を4.6cm目の網で囲い二重網とした。供試魚の輸送、計数方法も1尾づつピーカーですくい取り計数した1区を除けば昭和55年度とほぼ同様、70ℓポリ容器に収容して行なった。

餌料はマダイ用初期飼料、トビウオミンチ、ウナギ用配合飼料、マダイ用配合飼料、フィードオイル(3~5%添加)を使用した。沖出し後の摂餌は1日4回(7:00、10:00、14:00、18:00)実施した。また沖出し前日より10日間は夜間懐中電灯を点灯し、天然プランクトンの集収に努めた。

水温、塩分濃度は10:00~11:00の間に測定した。

結果及び考察

飼育結果を表-9に示す。

飼育期間中の水温は25.0~31.5℃の範囲で、平均27.9℃であった。塩分濃度は28.65~34.30‰の範囲で、大雨のあった直後を除けばほぼ33‰以上であった。

表-9 飼育結果

区分	収 容			取 り 揚 げ				
	月 日	尾 数	平均全長 mm	月 日	飼育日数 日	尾 数	平均尾叉長 mm	歩留り %
1	5. 10	1,332	9.1	7. 26	77	857	110.1	64.3
2	6. 11	12,600	12.2	6. 24	14	4,500	30.3	32.4
3	} 6. 21	30,000	} 11.0	} 7. 25	35	4,000	} 50.0	13.3
4		20,000				3,000		

※ 1区は0.5t小型水槽で飼育3面分を沖出しする。